熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 58
2015 AUTUMN

特集Ⅰ

ともに、地域を創る。

――熊大と地域、共生の時代。

特集Ⅱ

熊大埋蔵文化財散策マップ

――歴史は、あなたのすぐ足元に。

熊本大学
Kumamoto University

熊大通信

vol. 58
2015 AUTUMN

CONTENTS

03 特集Ⅰ　ともに、地域を創る。
———— 熊大と地域、共生の時代。

11 研究室探訪　特別でない、“みんなと同じ”服を。
誰もが自分で選び楽しむ衣生活を創出。
雙田珠己研究室

13 特集Ⅱ　熊大埋蔵文化財散策マップ
———— 歴史は、あなたのすぐ足元に。

15 国際交流　2015「世界」と触れ合う夏！

17 卒業生ジャーナル

19 KUMADAI TOPICS

22 熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学広報誌 熊大通信
＊皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

［発　行］国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119　Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

［編　集］熊大通信編集委員会
大日方信春／委員長　法学部
大野　龍浩／文学部
松永　拓己／教育学部
岡本　洋一／大学院法曹養成研究科
光永　正治／大学院自然科学研究科
緒方　公一／大学院自然科学研究科
谷口まり子／大学院生命科学研究部
首藤　　剛／大学院生命科学研究部
田中　尚人／政策創造研究教育センター
西川　洋子／マーケティング推進部広報戦略ユニット

［制　作］株式会社 談

表紙／特集Ⅰの取材に協力してくれた熊大生と、
熊本県立河浦高等学校の生徒さんたち（崎津天守堂前にて）

旅する熊大

熊本大学大江キャンパスの薬用資源エコフロンティアセンター（薬用植物園）には、一年中さまざまな花や薬草が咲いています。中でもひときわ大きく鮮やかな「大賀蓮」は、1951 年に東京大学総合運動場（当時は東京大学厚生農場）の地下の青泥層より発掘された実を発芽・開花させて得られた系統で、そのハスの実は二千年以上地中にあったと推定されています。そのため「古代蓮」とも称され、その歴史を経て受け継がれた美しさで訪れる人を楽しませています。植物園では、これからの季節、紫色の可憐なミソハギなどが咲き始めます。一般の方でも見学できますので、ぜひ一度足を運ばれてはいかがでしょうか。事前に連絡をされると、説明を受けながら園内散策をすることもできます。
【お問い合わせ・お申し込み／ TEL：096-371-4737/4781】

特集Ⅰ

ともに、地域を創る。

── 熊大と地域、共生の時代。

熊本大学は、地域社会と連携し、さまざまな分野で地域を創るための教育・研究・社会貢献を進めています。

さらに、26年度より、自治体など地域社会と連携し社会貢献を進める大学を支援する文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択され、全学的に「活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成」に取り組んでいます。地域の課題を解決する人材や情報・技術が集まる地域の中核的な存在としての熊本大学の役割が、加速度的に高まっています。

今号の特集では、その中から、まちづくり、医療行政、教育の分野における熊本大学の取り組みを紹介します。

地域の子どもたちへの支援活動

ゆうサポート/ユア・フレンド/フレンドリー

地域の医療行政に取り組む

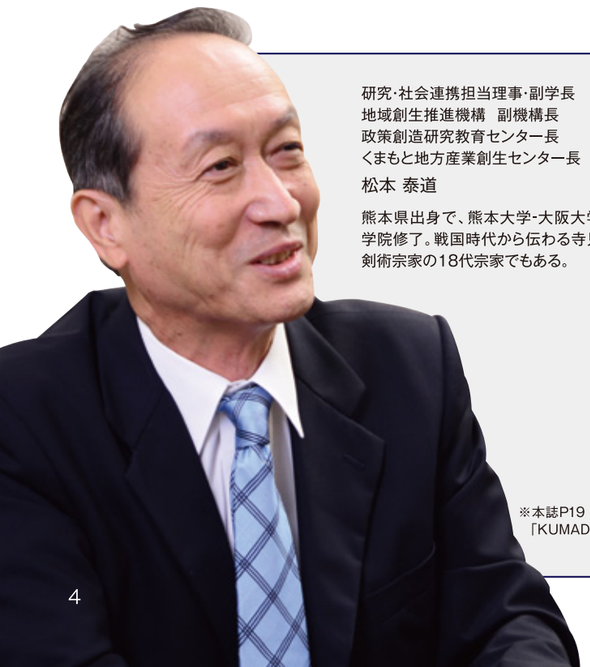
HIGOプログラム

文化的景観を活かしたまちづくり

地(知)の拠点整備事業

研究・社会連携担当理事 インタビュー

学生の学びと地域貢献を地方創生へとつなげる大学の役割



研究・社会連携担当理事・副学長
地域創生推進機構　副機構長
政策創造研究教育センター長
くまもと地方産業創生センター長
松本 泰道

熊本県出身で、熊本大学-大阪大学大学院修了。戦国時代から伝わる寺見流剣術宗家の18代宗家でもある。

今、地方の人口は減少の一途をたどり、消滅都市と言われるような地域も存在します。地方の疲弊は国そのものの存続にかかわり、現在、日本は国をあげて「地方創生」に取り組んでいます。

現在多くの大学が地域貢献を理念の一つに掲げており、熊本大学も、教員や学生らが地域の課題を克服するための取り組みを進めています。学生らにとっては、地域の高齢者や子どもたちを知り、地域の課題を知る第一歩。実際にやってみると、机上で学び考えていたものとは違う。それを知ることが力になります。また、地域にとっては、熊本大学という教育研究機関が地域課題解決に取り組んでいるという安心感を持っていただけるはずです。

地域活性に大切なのは、若い人がその地に定着すること。若者が定着するために必要なのは、魅力ある仕事があることと、住みたくなる魅力あるまちがあることではないでしょうか。そのためには、小さくてもいいので「熊本にしかない」、そんな新企業の創生と人材の育成、そしてまちづくりという多角的な取り組みが不可欠。そこに、地域とともにある大学の役割があると考えます。

今年8月には、熊本大学に「くまもと地方産業創生センター」が設立されました(※)。製造業を中心とした地域産業の活性化と雇用創出を見据えた人材育成を目標に掲げ、若者の地元定着につながるよう就職相談なども行います。熊本大学の地域連携と地域貢献が、地元に残り、地元を「創りたい」という人材の輩出につながるよう、取り組んでまいります。

※本誌P19「KUMADAI TOPICS」参照

文化的景観を活かしたまちづくり

地（知）の拠点整備事業

50年後も100年後も、幸せに暮らせる地域へ、大学と地域が、ともに動き出す。

流木や貝殻を使ったアートづくりを楽しむ地域の子どもと熊大生

熊大生のコーディネートで地域の世代間交流の場づくり

世界遺産の登録を待つ崎津天主堂がたたずむ天草市河浦町。静かな集落に、今日は賑やかな声が響きます。第27回目を迎える『教会の見える崎津みなとのフェスティバル』は、海に映える美しい花火で知られるお祭りです。この日の午後、富津コミュニティセンターを中心に崎津地域を巡るスタンプラリーや工作教室が開かれました。工作教室では、地元の高校生が地域の人たちとともに、子どもたちに天草伝統の凧作りを教えたり、流木・貝殻アートを子どもと一緒に作りました。いずれも「天草らしさ」を楽しんでもらいたいと企画されたものです。

そこでコーディネーターとして活躍したのが、7年前から崎津でフィールドワークを続けてきた熊本大学政策創造研究教育センターの田中尚人准教授とその研究室の学生たちです。田中准教授は、長年、文化的景観の研究を続け、熊本県各地で景観を活かしたまちづくりを行ってきました。

イベント当日のこの日、オープニングに続くステージイベントとして、河浦町の河浦高校全生徒77名一人ひとりが崎津の良いところを紹介したパネルが披露され、地域の人や河浦高校の生徒たちがステージに上がり、崎津への思いを語りました。

実は、熊本県立河浦高等学校は平成28年度末に閉校になることが決まっています。「地域の若者＝高校生を巻き込んで地域を元気にしよう」という田中准教授の呼びかけに応え、熊大生や地域の人、河浦高校生が一緒に動画の制作を行いました。「地域の若者を巻き込むことも大事。若者が元気になって地域を元気にしていってほしい」と田中准教授は話します。

河浦高校全生徒77名が探し出した「崎津のココがいい！」を発表。それらが書かれた77枚のパネルを組み合わせると、河浦の美しい夕陽と集落のシルエットを描いた大きな絵になりました。

工学部社会環境工学科４年
満永 圭亮さん・山本 隆太郎さん

この地域の一番の宝は「人」。みんなやさしくて、外から来た自分たちにも声をかけてくれるのが本当に心にしみました。

学生から地域へアイデアを提供 学生にとっては貴重な学びの場

世界遺産の話が湧き上がる前から、農村である今富地区と漁村である崎津地区を合わせた富津地区を「重要文化的景観」地区として位置づけ通い続けてきた田中研究室。地元の団体「竹花会」の事務局長・中村美生さんは、「自分たちが思いもつかないようなまちづくりの提案を学生さんがしてくれることがありがたいですね」と熊本大学との連携を評価しています。竹花会は現在、学生の提案によって地区のフットパス整備も進めています。

学生たちにとっても、地域を自分の目で見て足で歩き、住民と直接語り合うという、机上理論ではない学びの場となっています。「大事なのは、『崎津らしさ』です。地域の良さに地元の人も、外から学生も気づく。地域の人は、外の人から地域をほめられることで、魅力を再認識されることもあります。崎津らしく、地域の皆さんが幸せに、50年後、100年後も暮らし続けていく、そんな地域であってほしい。世界遺産になれるのはいいと思いますが、それが全てではないですし、世界遺産になったときも、結局地元の人の気持ちが大切ですから」と田中准教授。地域の良さを見出す熊大生と、熊大生に貴重な実践の場を与えてくれる地域。現場で学び合うすばらしい関係が構築されています。

政策創造研究教育センター
田中 尚人 准教授

文化的景観の研究に取り組んできた田中研究室。地域に通い、地域の人とつながることで、地域をもっと元気にしていこうと呼びかけてきました。

地域の医療行政に取り組む
HIGOプログラム

医療過疎地を学び、地域とともに課題を解決。「現場力」を備えたリーダーを目指す。

インターンシップで行った上天草市の人たちへの聞き取り調査

行政や企業でも力を発揮できる人材を輩出

「HIGOプログラム」は、医学・薬学などを基盤とする「健康生命科学」の知識を持ちつつ、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、グローカル（グローバル＋ローカル）に様々な課題を解決できる人材を育成する大学院医学教育部・薬学教育部のプログラムです。

学生たちは、インターンシップ（企業、行政、海外）参加や、企業や行政のセミナー、さらに、倫理、政策、経営など文系の講義も受講。「これまでのように教育者や研究者になる博士人材ばかりでなく、コミュニケーション力をはじめとした様々な社会性を身につけた新しい形の博士人材を育成するものです。実際、研究ばかりで社会性が不足、そんな博士に対するイメージを変えたいという意欲ある学生ばかりです」。こう語るのは大学院先導機構（リーディング大学院部門）の梅田香穂子特任助教です。現場を学び、企画力やマネジメント力もある「現場力」を備えたリーダーを目指しています。

医療行政の現状を知る調査の一環で
薬局にも聞き取りを行いました

インターンシップの中でも、今回3回目となる上天草での医療行政インターンシップは、医療過疎や高齢化という問題に対し、学生が地域とともに課題解決に取り組んでいます。

学生と地域が手を組み地域医療の将来を担う

厚生労働省が推進している「地域包括ケアシステム」の構築を進める天草地区。行政インターンシップは、天草という、橋がなければ離島となってしまう特殊な地域における医療の現状を探るということが、高齢化が加速している日本においてのモデルケースとなることから始まりました。「地域でのアンケート調査から、若者がいない、特に医療従事者が不足していることが見えてきました」こう語るのは、行政インターンシップを担当する大学院先導機構（リーディング大学院部門）の大浦華代子特任助教です。給料を平均より高く設定しても、なかなか医療従事者が増えない。そんな現状から、地域の人が自ら健康を保てるように、特定健診と、病気になりやすそうな人への保健指導の充実を学生らが提唱しています。「地域の中では分からないことが、若い学生や留学生などが意見を出してくれることで見えるようになります」と語るのは、上天草市保健課の尾崎忠男課長。新たな視点が地域に刺激を与えています。

今年は7月に、学生と教員30余名が上天草を訪れ、座学や見学で上天草の医療の現況を学びました。続いて8月には、日本人学生と留学生の発表や上天草市長からのリーダーシップについての講演、上天草市の行政関係者および医師や看護師、介護士などの医療従事者と学生らが、特定健診検診率を上げるにはどうすればいいかなどを話し合うワークショップなどが開催されました。「行政の方がインターンシップの企画に好意的で、学生目線のアイディアを出しくれることがありがたいと言って下さいます」と大浦特任助教。梅田特任助教も、「学生と教員が月一度は天草を訪れ、上天草の行政や離島の医師も含めた医療関係者らと、地域のニーズと学生の考えのすり合わせをしながら企画を考えているので、ネットワークもできています」と、上天草市でのHIGOプログラムの手ごたえを語ります。地域の課題解決を自らの力にしようとする学生と、学生の力で活性化を目指す地域がガッチリとタッグを組む、そんな形が上天草の地でできあがりつつあります。

大学院先導機構
（リーディング大学院部門）
大浦 華代子 特任助教

これまで自分の周囲のことにしか目を向けていなかった学生が、地域の方と接することで視野をひろげていることを実感します。こういった学びを大切にして将来に活かしてほしいと思います。

熊本大学 博士課程教育リーディングプログラム
グローカルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO
HIGOprogram

高齢化の進む日本の制度と実情を学びたい

大学院医学教育部博士課程２年　分子細胞制御分野
チョードリー アビジットさん（バングラディシュ出身）

バングラディッシュも、2050年には高齢化が進むと言われています。日本の高齢化問題も学び、将来に活かしたいと思います。

日本での学びを母国の制度に活かしたい

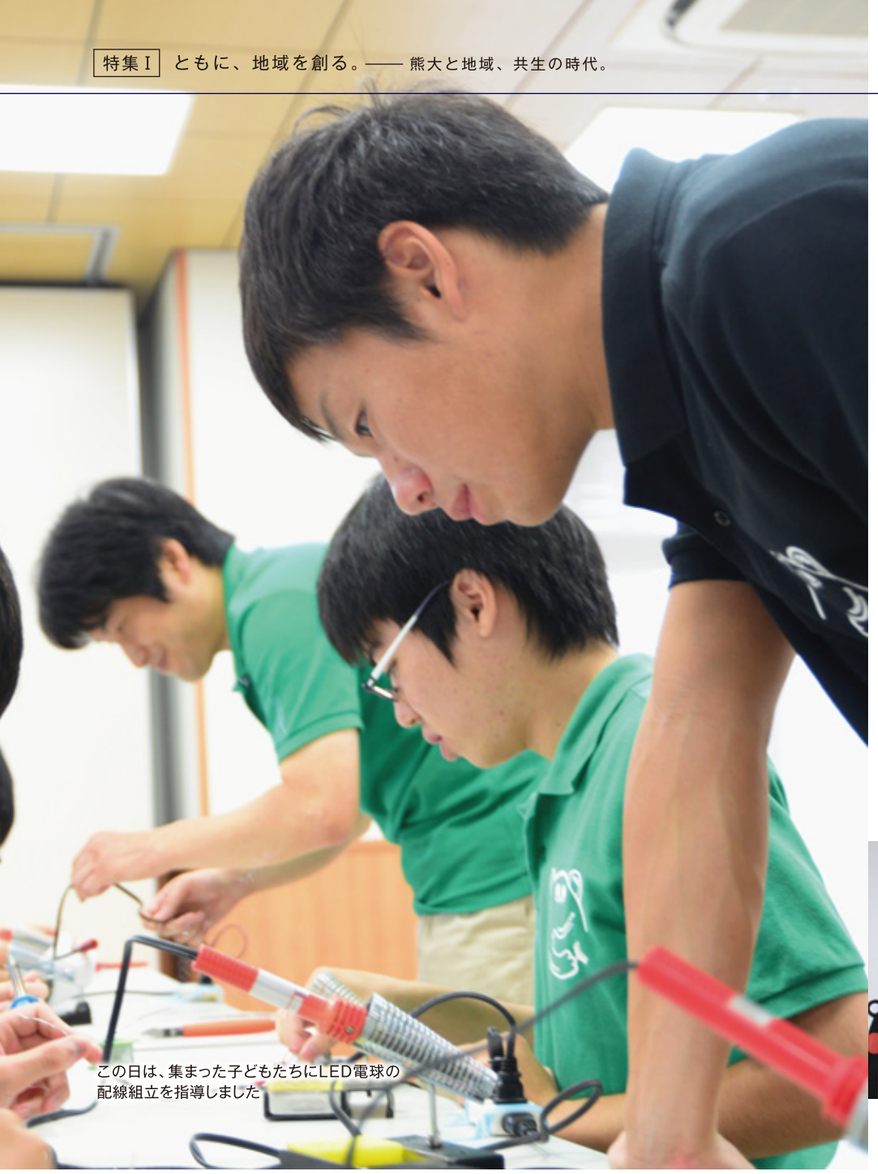
大学院薬学教育部博士課程１年　薬用植物学分野
カイ ツアー ワイン ミンさん（ミャンマー出身）

2年前から筑波大学で学び、地域に入りリーダーシップも学べるHIGOプログラムを知って熊大に来ました。ミャンマーの医療制度はこれからなので、日本で多くを学び、母国で制度を教え、つくる立場になりたいです。

身近な地域のことを学び世界へ!

大学院医学教育部博士課程２年　公衆衛生学分野
穴井　茜さん

大学では近くにいる人とばかり話すので、インターンシップでいろいろな世代や立場の方と話すことが力になります。天草で感じるのは、医療従事者の方の地域に対する熱い『天草愛』。身近な地域をしっかり学び、将来、JICAなどでグローバルに活躍できたらと思っています。そんなグローカルな力をHIGOプログラムでしっかり培います。



この日は、集まった子どもたちにLED電球の配線組立を指導しました

学生だからできる、友だちのように、心を開ける。

適応指導教室「フレンドリー」には市内各地から不登校の子どもたちが集まります

不登校の子どもをサポート

地域の子どもたちを支える取り組みはほかにもあります。熊本市教育委員会と熊本大学が連携して取り組んでいる「ユア・フレンド事業」です。「ユア・フレンド」として登録している学生たちは週1回、約2時間を使い、子どもたちの話し相手や相談相手として、家庭や学校に足を運びます。直接子どもと会い、声に耳を傾け、子どもたちがやりたいことを一緒にやり、人と交流するすばらしさを感じてもらうことが目標。学生たちへの研修や指導は、教育学部が支援しています。「友だちみたいだった」「クラスの友だちとも話せるようになった」との子どもたちの声のほか、保護者からも「子どもの生き生きとした目の輝きが見られるようになった」などの声も。学生からは「子どもと真正面から向き合い続ける大切さを知った」という体験談も聞かれています。これまでの成果は全国から注目を集め、参加学生らもますます積極的に取り組んでいます。

また、熊本市教育委員会が不登校の子どもたちを対象にした適応指導教室「フレンドリー」にも教育学部の学生が協力しています。適応指導教室「フレンドリー」は月曜から金曜まで、教科学習、スポーツやものづくりなど、定められたカリキュラムのもと、担当の相談員とともに子どもたちの活動をサポートするのが「フレンドリー支援員」として活動する学生です。目標は、子どもたちの学校復帰と社会的な自立の支援。「子どもたちは、年齢が近いことで、親や大人に話せないことも学生さんたちには話すことができる。学生の皆さんには、それを武器に子どもたちの心を開いてほしいと思っています」。こう語るのは、熊本市教育委員会事務局の中島幹記先生。「学生さんたちも、子どもたちのために何かしたいという熱心な人ばかりです。もし悩んでいる保護者やお子さんがいたら、ぜひここに来てほしい」と中島先生は呼び掛けます。

大学院教育学研究科学校教育実践専攻
学校教育専修心理学コース１年
常田 麻衣さん

教育実習で現場には出ますが、一教員として見られるだけ。もっと実践を通して子どもや保護者とかかわってみたいと登録しました。保護者の方たちは学生の私にも真剣に話をしてくださり、自分の勉強のためだけでなく、子どもたちや保護者のためになればとがんばっています。大学院で臨床心理士の資格を取り、発達障がいのある子どもたちの支援をすることが将来の目標です。

地域の子どもたちへの支援活動

ゆうサポート/ユア・フレンド/フレンドリー

学生自身が「相談員」、電話応対から学習支援まで。

教育学部附属教育実践総合センター 北崎 佳正 シニア教授

「ゆうサポート」の取り組みは、口コミなどで広がっており、地域のニーズがあると感じています。

通常の学級に通う支援が必要な子どもたちのために

熊本大学の教育学部は、地域の子どもたちを支援するさまざまな取り組みを行っています。その一つが平成26年度に始まった「ゆうサポート」です。実は、LD（学習障がい）、自閉症、アスペルガー症候群などの発達障がいがありながら通常の学級に通う子どもは、約6.3％。1クラスに2、3人は支援が必要というデータがあると語るのは、教育学部附属教育実践総合センターの北崎佳正シニア教授。「先生や保護者をサポートし、日頃の授業などの中だけではカバーしきれない部分を個別の学習で補い、通常の学級にいる支援が必要な子どもたちを〝おだやかに学級に戻す〟のがこの取り組みの目標です」。

具体的には、まずこの制度を知った保護者などからの電話を受け、次に実際に保護者と会い相談を受け、最終的にはケースカンファレンスで指導を行うかを決定します。「ケースカンファレンスを行うのは、実際にお話しを伺うと、ここ以外の支援が適切な場合などもあるためです。子どもたちにはより適した支援を受けてもらいたい」と北崎シニア教授。指導が決定すると、週に1回のペースで90分、その中で2コマの学習支援などを行います。電話応対から子どもたちの指導まで、主体となって活動しているのが相談員として登録している学生たち。「全員びっくりするくらいまじめで前向きです」と北崎シニア教授。悩める学級、先生、子どもたち、保護者が今より少しでも減るように、そして子どもたちが今よりもっと学校生活を楽しめるように、「ゆうサポート」の取り組みは続きます。

研究室探訪

雙田珠己研究室
教育学部

着脱動作の可動域を計測するためのズボン

特別でない、〝みんなと同じ〟服を。誰もが自分で選び楽しむ衣生活を創出。

「今日の服、いいね」そんな会話が楽しめるよう

「衣服は個性表現の一つですが、運動機能に障がいがあるため着脱が難しい方は好みの服を選ぶこともままなりません。今日は何を着ようと考えたり、友だち同士で〝それいいね〟なんて話すこともほとんどないわけです」。20年近くにわたり「運動機能に障がいがある人の衣服と衣生活」を研究テーマとする雙田珠己教授。「運動機能障がいがある方には機能重視の服が必要ですが、それだけだと見るからに〝特別な〟服になってしまう。そうではなくて〝みんなと同じ服であること〟が大事。そして自分で着脱できること。その支援が大きなテーマです」。

現在取り組むのが、座位姿勢に適したズボンの製作。「一般的なズボンは立った姿勢で型紙が作られており、座ると前が余ったり後ろが足りなかったり。座位姿勢重視のズボンは、車椅子の方はもちろん、一般の方でも座って仕事をする方などに適します」。それを個々に合わせて製作すると高額になるため、既製服メーカーが対応できるバターンづくりを最終目標に研究が進められています。

「差」ではなく、「違い」。教育者の大切な意識を培う

「障がいを持つ人に向けて衣服環境を考えていくのがバリアフリー。それに対し、障がいのある人も含めて〝みんなに合わせる視線〟を持って衣服を考えていくのが〝ユニバーサル〟です」と雙田教授。五十肩で腕が上がらない、高齢で運動機能が低下した、そんな人も、機能ばかりを重視した服では満足できません。機能の低下をカバーできるデザインの既製服が一般的な価格で買えれば、生活の質を落とさずに済みます。

〝みんなに合わせる視線〟をもって研究に取り組む学生たちを雙田教授は「教育者となるために一番大切な〝人は皆違っていて、それぞれに合わせた教育が大切〟という考え方を自然と身に付いているようです」と評します。「教育学部の被服学研究室ですから、基本は障がいのある子どもを含めた子どもたちの衣生活教育がテーマ。年齢が上がり世の中に出ていくには服が必要。ジロジロ見られたくはないけど認められたい、そんな成長過程の気持ちをうまく利用して、衣生活の楽しみをわかってもらうことが目標です」。誰にでも快適で個性も表現できるユニバーサルな衣服づくりをマニュアル化し、「それが普通にお店に並ぶような時代になれば」と雙田教授。「洋服が着る人を支えられる、それを形にすることが私たちの夢です」。

lab's data
【雙田研究室テーマ】

□研究テーマ
運動機能に障がいがある人の衣服と衣生活

□修論・卒論テーマ
・ズボンの着脱動作が生理的負担に与える影響
・ユニバーサルデザインの視点に立ったエプロンの検討
・色彩選択に関する授業プログラムの構築と授業への展開
・中高校生と保護者を対象にした衣生活観の調査

□メンバー
雙田珠己教授、学部４年生３人、３年生１人、留学生（台湾）１人

□OB・OGの進路
小学校・高校教諭、百貨店など

Interview

教育学部
中学校教員養成課程家庭科4年

猿渡 奈央さん（中央）

被服に興味があってこの研究室を選びました。卒論テーマはマタニティウェアです。これまで、難しいこともありましたが先生の指導のおかげでやってこられました。被服・衣服は人類と長い間つながっているもの。服って奥深いなと感じます。

宇野 妙恵さん（右）

小学校教員養成課程学生のための基礎縫い技術の習得を目的とした ICT 教材の製作をテーマに研究しています。興味のあることに挑戦させてもらえるのが雙田研究室。来る前に、何をやりたいか説明できる力をつけておくといいですよ。

楳田 彩乃さん（左）

聞き取り調査などで多くの人と接し、教員になる前のいい経験になっています。卒論は「レインウェアの素材の違いが衣服気候に与える影響」。学問なので専門用語が並ぶ論文も読まなければならず難しいですが、その分、力もついたと思います。

密着！雙田研究室

日々の実験やミーティングのほか、学生生活の思い出づくりも満載の研究室の毎日をご紹介。

2015.5
江津湖療育センター主催の「福祉機器展」に、産学共同開発したエプロンを出展。レインウェアの生地のコンテストも行い施設の皆さんに楽しく選んでいただく。

2015.2
特別支援学校の浴室を借りて雨が降る環境をつくり、レインウェアの実験。真冬なのにみんなでびしょびしょになりながらレインウェアの機能を検証。

2014.11
特別支援学校の生徒さんや先生方、介護施設の入所者さんや職員の皆さんにインタビューを実施。生の声を製品に反映することで、本当にユニバーサルな衣服を創りだす。

3年前のイベント
『家庭科を語ろう』と題して、アメリカや台湾、ドイツ等の留学生と懇談。国による家庭科に対する意識の違いを知り、改めて日本の家庭科について考える。

特集Ⅱ

熊大埋蔵文化財散策マップ

―― 歴史は、あなたのすぐ足元に。

近年、熊本大学では考古学における3つの貴重な発見がありました。

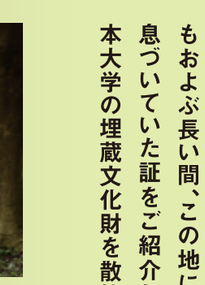
学生や教職員が忙しく日々を過ごすキャンパスの下には、縄文時代～近代にかけての遺跡が眠っています。

熊本大学のキャンパスとなる以前の何千年にもおよぶ長い間、この地に脈々と人の暮らしが息づいていた証をご紹介します。この機会に熊本大学の埋蔵文化財を散策してみませんか。

1～10 遺跡の発掘場所には多言語の案内サインが建てられています。サインを目印に今立っている場所に何があり、どのような昔の人々の生活があったのか、思いをはせてみませんか。

【発見その1】
よくぞ残った！ 平野部での貴重な発見 ～縄文人骨 7

縄文人骨が見つかったのは、熊本大学黒髪南キャンパスの一角。これまで、江戸時代の地層の下に奈良、平安時代の遺跡があることはわかっていましたが、その下にある層から、九州でも類例が少ない縄文土器が大量に出土。さらに掘り下げると縄文人骨が発見されたのです。一体は歯が見事にそろった男性、もう一体は小柄な女性でした。平野部で、貝塚などもない場所に縄文人骨が見つかることは大変珍しいことで、現在は専門機関に預けられ調査が進められています。



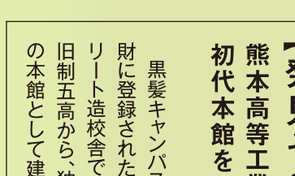
【発見その2】
熊大病院の足元に、江戸時代の水路発見！ ～三の井手

熊本市の渡鹿、新屋敷、本荘を流れる用水路は、加藤清正が造った農業灌漑用水路が始まりで、現在のものは江戸時代から同じ場所にあると考えられてきました。ところが、熊本大学医学部附属病院外来診療棟新築工事の際、地下水路の補修中にそばから江戸時代の特徴を持つ水路の石垣が出土。江戸時代には、実はここに別の水路が通っていたことが確認されました。6個並べると一間（1.8m）になる一辺一尺（約30cm）の「間知石」が並んでいる様子がわかります。江戸時代の井手の実物は全国でも珍しい発見となりました。

※27年度中に本荘キャンパスにも案内サインが建設される予定です。

【発見その3】
熊本高等工業学校の初代本館を支えた赤煉瓦！

黒髪キャンパスの本部棟は登録有形文化財に登録された大正期の重厚な鉄筋コンクリート造校舎ですが、実は2代目。1代目は旧制五高から、独立した熊本高等工業学校の本館として建てられた木造校舎。竣工から14年後に焼失しており、今回、その赤煉瓦積みの基礎が発見されました。資料では、焼失後の復興には基礎をそのまま利用可能と判断したと記述がありますが、実際は壊されていたことも判明。新旧の建物は奇しくも関東大震災を挟んで建築されており、建物の耐震に関する考え方が大きく変わったことを物語る貴重な遺構です。



大学に在籍している人も大学の下に遺跡があるなんて知りません。まずは大学をはじめとし、そして地域へと文化財のすばらしさをアピールしていきたいです。

ヤキンちゃん
埋蔵文化財調査センター
非公認キャラクター
熊本高等工業学校初代本館の中央部のデザインがモチーフ。火事にあってしまったので、ちょっぴり火傷の跡があります。

遺跡は、特別なところにだけあるわけではありません。現在、人がいるところには昔も人がいて、そして私たちも歴史をつくる一部だということを感じてもらえたら。

熊本大学を離れても、今いる場所の下に遺跡があるかも、という気持ちを持ってほしい。今回の発見がそんなきっかけになるといいですね。

埋蔵文化財調査センター
助教
大坪 志子

埋蔵文化財調査センター
助教
山野 ケン陽次郎

国際交流

2015

「世界」と触れ合う夏！

熊本大学は平成26年度より、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択され、真のグローバル人材育成に向けた様々な改革に取り組んでいます。

そのひとつが、中学・高校・高等専門学校と連携して地域におけるグローバル教育の発展に協力し、共同で推進していく「熊大グローバルYouthキャンパス」事業。この夏、さまざまなイベントを開催し、高校生と留学生、海外留学などを体験した熊大生が交流しました。

Kumamoto University Summer Program in English 2015

7月23日(木)～7月31日(金)

熊大で、協定校学生と地域高校生が交流

熊本大学の海外協定校は、現在世界38カ国1地域の184機関におよび、学生の交換留学をはじめとした様々な交流プログラムを実施しています。今年初めて、英語によるサマープログラムを実施し、ASEAN諸国のうち4カ国の協定校から36名の留学生が参加しました。

一行は、9日間のプログラムを通して熊本の水環境や水俣病、熊本の歴史に関する講義のほか、実際に水俣病資料館や熊本城などを見学し、日本、熊本について理解を深めるとともに、日本の大学の教育研究の質の高さに触れる機会となりました。

さらに、初めての試みとして、熊本県内の高校生と留学生の交流の機会を設けました。高校生33名とサポーターとして6名の熊大生も加わり、ゲームや、留学生による熊本での体験発表、英語での意見交換など、日頃留学生とふれあう機会の少ない高校生にとって、有意義な交流の機会となりました。

▲ 留学生、高校生、そして熊大生が一緒にゲームなどで交流した

2015 留学生受入れプログラム

この夏、アジア各国の学生が熊大に！

7月～9月にかけて、「サマープログラム2015」をはじめ、様々なプログラムで留学生を受入れました。各プログラムで、留学生と熊大生との有意義な交流が行われました。

■夏の主な留学生受入れプログラム

名　称	参加人数
Kumamoto University Summer Program in English 2015	36名（インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア）
熊本大学サマープログラム2015（日本語）	36名（中国、韓国、台湾）
日韓合同デザインキャンプ（工学部）	19名（韓国、台湾）
※JST日本・アジア青少年サイエンス交流計画 さくらサイエンスプラン（大学院自然科学研究科）	10名（韓国、フィリピン、タイ、マレーシア）
JST日本・アジア青少年サイエンス交流計画 さくらサイエンスプラン（薬学部）	9名（ラオス）
熊本大学への海外学生の訪問（韓国・東亜大学校、上海・進才中学校、洋経小学校）	約150名（韓国、中国）

※JST：国立研究開発法人科学技術振興機構

国際交流レポート（6月～8月分）

6/1 「くまもとアピールの日2015」参加、インドネシア2大学を表敬訪問（3日まで）

原田信志学長をはじめとする本学の訪問団がインドネシアを訪問し、蒲島郁夫熊本県知事ほか約70人と共に熊本をアピールするイベントに参加しました。また、インドネシア大学及びウダヤナ大学を表敬訪問し大学間交流協定締結に向けた話し合いを持ちました。

6/1 ニューメキシコ大学（米国）技術移転業務に関するインターンシップ（8月7日まで）

大学研究に係る技術移転、ライセンシング、特許、スタートアップ等を先進的に行うニューメキシコ大学にて、HIGOプログラムの学生（医学教育部博士課程4年）が本人の企画提案によるインターンシップを行い、先進国である米国の現状を学びました。

7/16 山東大学（中国）国際夏季研修に参加（24日まで）

交通計画・技術に関する夏季研修が山東大学で開催され、大学院自然科学研究科博士前期課程学生6人が参加しました。講義及び参加者間のディスカッションなど全て英語によって行われました。

7/23 英語サマープログラムを実施（31日まで）（上段を参照）

7/27 ムブジマイ大学（コンゴ民主共和国）表敬訪問

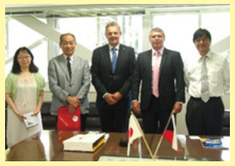
トウンバ・ディサシ学長が原田学長及び西村泰治大学院生命科学研究部長を表敬訪問しました。ディサシ学長は平成9年に本学大学院医学研究科で博士号を取得されました。表敬の他、医学部・工学部等の施設見学を行いました。

8/2 ラオス保健科学大学（ラオス）の学生らが本学を訪問（9日まで）

国立研究開発法人科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」により、学生9人と教員1人が薬学部、医学部、附属病院等を訪問しました。

8/4 バルドゥビツェ大学（チェコ）と部局間交流協定を締結

ミロスラフ・ラディック学長及びジリ・クルハーネク副学長が大谷順大学院自然科学研究科長を表敬訪問し、本学工学部及び大学院自然科学研究科との部局間交流協定の調印式を行いました。



8/8 オープンキャンパスにてグローバルYouthキャンパス サマー・フェスタを開催（上段を参照）

8/19 ニューカッスル大学（オーストラリア）表敬訪問

アンドリュー・パーフィット副学長が原田学長を表敬訪問しました。ニューカッスル大学とは1986年から約30年間交流が続いています。

熊大グローバルYouthキャンパス サマー・フェスタ

開催日 8月8日(土)

留学生活を高校生が疑似体験！

熊本大学の「オープンキャンパス2015」における行事の一環として高校生を対象に、熊大生の様々な留学体験を紹介し、グローバルな活動に関心を持ってもらうことを目的としたイベントを今年から実施しています。交換留学を経験した熊大生の発表や、現在オーストラリアに留学中の熊大生とのスカイプセッションなど盛りだくさんの内容でした。イギリスのリーズ大学に留学し、体験発表をした文学部4年の松島美希さんは、「熊大には色々な留学の制度があるので、そういった説明を自ら聞きに行ったりと1年の頃から準備を行った。留学先では、カルチャーショックもあったけれど、ディスカッションが必要となる講義やサークル活動等を通し、積極的にコミュニケーションをとって、様々な体験をしていくことが面白い」と充実ぶりを語りました。熊本大学進学や将来の留学を考える多くの高校生が充実した時間を過ごしました。

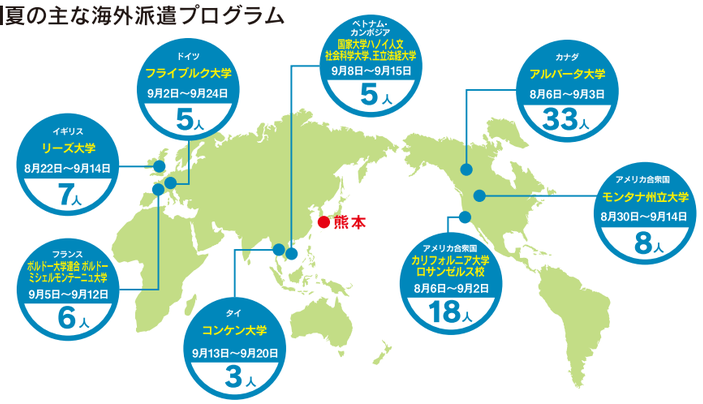
▲ 体験発表をした文学部４年生の松島さん。高校生から様々な質問が投げかけられる

2015 海外派遣プログラム

学生時代の夏休みに有意義な国際交流を体験

この夏休み期間中に、様々な海外派遣プログラムが実施され、合計80名を超える熊大生が参加しました。これらのプログラムは、アジア、北米、ヨーロッパと多地域にわたり、参加者は、語学研修だけでなく研究調査活動や現地の体験プログラムに参加するなど、貴重な日々を過ごしました。

■夏の主な海外派遣プログラム



卒業生ジャーナル

GRADUATES' JOURNAL

本学の卒業生たちの“今”に迫る
「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する
先輩たちのこれまでの歩みや苦労、
そして喜び、楽しみなどを通じて
精励するその姿をご紹介します。

文学部　現在は1年生の学級を担任 生徒たちとともに成長する毎日

黒田　幸
Miyuki KURODA

福岡県立
ありあけ新世高等学校
教諭

文学部文学科英語英米文学専攻
平成25年度卒

平成４年生まれ、福岡県大牟田市出身。福岡県立三池高等学校を卒業後、熊本大学文学部へ進学。大学卒業後は福岡県立高等学校教諭として勤務。

熊大のココがイイ！
尊敬できる先生・先輩・友人にたくさん出会えるところ！

教師になりたいと思いつつ ほかの職業にも興味

小学生の頃から教師になりたいと思っていましたが、ほかの職業にも興味があったので、職業については大学に行って考えようと思っていました。

勉強も、友人との時間も充実 大学生らしい毎日を楽しんだ

英米文学の授業と教職科目を中心に履修し、授業の空き時間には研究室で友だちと一緒に授業の予習をしたり、おしゃべりをしたりして学生生活を楽しみました。また学内の語学研修（オーストラリア）に参加したことも、とてもいい経験になりました。所属していたバドミントンサークルでは学内の大会に出たり、キャンプやスノーボード、飲み会、大学祭などに参加したりしました。自宅通学だったため、友人の家に泊めてもらって遊ぶことも多かったです。

教えることより教えられるほうが多い 今も、日々勉強

卒業後英語科教諭として福岡県立の総合学科高校に配属され、教員生活2年目を迎えています。現在は高校1年生の学級担任をさせていただいており、生徒とともに充実した日々を送っています。生徒に教えることよりも教えられることの方が多く、毎日が勉強の連続です。

法学部　弁護士資格取得後、即開業 研鑽を積み、人や企業を支えたい

上田　祐輔
Yusuke UEDA

上田法律事務所（熊本）
所長（弁護士）

法学部法学科
平成18年度卒

昭和59年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立熊本北高等学校卒業後、熊本大学法学部、西南学院大学法科大学院を経て平成22年9月司法試験合格。司法修習修了後、平成23年12月熊本県弁護士会に弁護士登録。

熊大のココがイイ！
すばらしい恩師とすばらしい仲間！　一生モノの財産を築けます。

将来を思い、「今は勉強」と 励んだ高校時代

高校生のころは、具体的にこんな職業に就きたいと明確に考えていた訳ではありませんでした。当時は実家の家業の問題で生活状況も十分ではなかったので、「将来安定した生活を送るために今はとにかく勉強しよう」との思いで日々を過ごしていたと思います。

周りが就職を目指す中 意思を貫き法科大学院へ進学

大学ではサークル（写真部）とバイトに明け暮れる日々。講義よりも昼間から外で写真を撮っていた思い出の方が多い気がしますが、写真部で培った人間関係は今でも大きな財産です。大学生活の後半では法科大学院進学のための勉強を開始。周りが公務員試験を受けたり就職する中で進学することは勇気のいることでしたが、自分の意思を貫きました。

地元熊本で開業 地域の助けになるべく、日々研鑽

熊大卒業後、福岡県の西南学院大学法科大学院に進学し、3年間司法試験の勉強をしました。司法試験合格後、司法修習を経て平成22年12月から地元熊本に戻り、弁護士として活動しています。私は、弁護士資格取得後直ちに自分の事務所を開業して独立したいわゆる“即独”弁護士。地域の人々や企業の手助けができる弁護士になりたいと日々研鑽を積む毎日です。

医学部　産婦人科医として女性の一生に 寄り添いたい

本岡　大社
Yashiro MOTOOKA

天草中央総合病院
産婦人科　医師

医学部医学科
平成23年度卒

昭和61年生まれ、熊本県天草市出身。熊本マリスト学園高等学校卒業。熊本大学医学部卒業後、2年間の初期臨床研修を経て熊本大学附属病院の産科婦人科学教室へ入局。現在天草で勤務。

熊大のココがイイ！
先生方が教育熱心で、学生も一生懸命。柴三郎プログラムも一押しです。

ブラックジャックに憧れた高校時代

高校1、2年生の頃は漠然と「将来は何か世界を変えるような仕事をしてみたい」と思っていました。そんな中で、漫画ブラックジャックの「もし人の命を救ってその人の人生を変えたなら、もしかしたら歴史だって変わるかもしれないだろう？」という言葉に出会い、医師の道に興味を持つようになりました。

音楽を通して興味が広がり 刺激的な学生生活に

大学では軽音楽部に所属し、たくさんのすばらしい仲間と出会うことができました。たくさん飲んでたくさん笑いました。さらに、音楽をきっかけとして、映画、絵画、哲学などさまざまな物事に興味を持つように。刺激的な大学生活だったと思います。

人生の節目に、すべての女性が 笑顔でいられますように

現在、産婦人科医として働いています。お産のほかにがん治療や不妊治療など、女性の人生の大きな節目に関わらせていただいています。どの分野も女性にとっての一大イベントであり、大きな悩みの種でもあります。産婦人科医として、すべての女性が笑顔でいられるような手助けをしたいと思い、日々の診療に当たっています。

工学部　子どものころからの夢を実現し F1の舞台で世界と腕を競い合う

吉本　慎太郎
Shintaro YOSHIMOTO

本田技術研究所
Honda Racing Development
(栃木)

工学部工部知能生産システム工学科 平成12年度卒／大学院自然科学研究科生産システム科学専攻博士後期課程　平成17年度修了

昭和52年生まれ、熊本県熊本市出身。九州学院高等学校卒業後、熊本大学工学部へ進学。平成18年に本田技術研究所四輪R&Dセンターに入社し、現在はHRD-Sakuraに所属。

熊大のココがイイ！
緑豊かな中で、研究環境が充実しているところ。

小学生の時からクルマ好き F1に魅了されエンジニアを目指す

小さい頃からクルマが好きで、よく模型やミニ四駆を作って楽しんでいました。小学生の時にTVで観たF1日本GPに魅了されF1エンジニアになりたいと思うようになり、高校生の時はそれをモチベーションに勉強。当時はF1レースの放送を欠かさず録画し、暇さえあれば何度も観ていました。

大学院での研究の苦労が 自分を強くしてくれた

4年の卒業研究でようやく研究らしいことができると打ち込むようになり、大学院ではマグネシウム合金の研究漬けになりました。その数年間は、背伸びしてダッシュしているような感じで常に追い込まれている日々。人生の中で一番きつい時期でした。一方で、それによって強さが身につき、仕事の見積もりもできるようになったと思います。

純粋に速さのみを追求できる 技術者として幸せな仕事

現在はレース開発の事業所で、F1から国内レースまで、材料領域担当として研究開発に従事。純粋に速さのみを追い求めて研究できることは技術者にとって幸せであり、特にF1は世界のメーカーとの技術戦争でもあり、自分も日本代表として戦っている気分です。「日の丸技術で一番を取る！レースに勝つ！」をモットーに日々取り組んでいます。

理学部　人生で一度きりの中学時代を 充実した時間にしてほしい！

鳥井　阿友
Ayu TORII

横浜市立原中学校
教諭

理学部理学科
数理科学プログラム
平成 23 年度卒

平成元年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立第二高等学校卒業後、熊本大学理学部へ。現在は横浜の中学教師。数学科でバレーボール部顧問。好きなことはディズニーリゾートに行くこと。

熊大のココがイイ！
校内のたくさんの樹木が四季を感じさせるところ。

学校生活が楽しくて 教員の道を目指すように

小・中学時代から、なんとなく学校の先生になりたいと思っていました。毎日の学校生活が楽しく充実しており、すばらしい先生方と出会いが多かったからだと思います。高校生のとき女性の数学の先生へ憧れ、教員になりたいという思いがさらに強くなり、教員免許が取れる学部を目指すようになりました。

大学でもバイトでも 本当に多くの仲間に恵まれた

学部の友だちとスポーツをして遊ぶことが多く、夏休みには、海や山でキャンプ、テスト前はみんなで徹夜で勉強。アルバイトでは、アルバイトマネージャーになるまで仕事を極めました。多くの仲間や先輩、先生方に恵まれ、充実した日々を送ることができました。

立派に卒業してくれる日を思い 精一杯生徒と向き合う毎日

生徒の言葉や態度に悩むだけでなく、部活動の顧問になると、朝連や練習試合で休みはほぼなし。辛いことが多いですが、生徒たちには人生で一度きりの中学校生活であり、その時間を充実したものにしてほしいという思いで学級経営や部活動指導、教材研究に励んでいます。また、生徒の優しさや成長に触れた時はやりがいを感じます。生徒たちが立派に卒業する日を目指し、微力ですが、私なりに精一杯生徒と向き合っていこうと思います。

薬学部　分野を横断する知識を持つ薬学の 強みを生かし医療発展に貢献

城野　博史
Hirofumi JONO

熊本大学医学部附属病院
薬剤部　准教授

薬学部薬科学科
平成9年度卒／大学院薬学研究科博士後期課程薬科学専攻
平成14年度修了

昭和49年生まれ、福岡県北九州市出身。長崎県私立青雲高等学校卒業後、熊本大学薬学部を経て熊本大学大学院へ。平成10年に薬剤師免許、平成15年に博士（薬学）取得。

熊大のココがイイ！
長い歴史と伝統、それを支えてきた情熱（母校愛）と明るく活発な校風。

患者を思う医師の姿に 触発された中学時代

中学の時に見たテレビ番組の中で、クリスマスに帰宅できない入院患者のために、サンタの格好をして病室を訪問しギターの弾き語りをする医師の姿を見て、将来は「歌って踊れる医者」になろうと本気で思っていました。

研究室配属後、未知の世界に挑む 研究の世界に魅了

学部生の頃は、講義・実習、サッカー部での活動を通して多くの人と出会い、大学生活を満喫していました。研究室配属後は、“正解がある”これまでの勉強から、”正解のない”未知の事柄を解明する研究の世界に魅了され、一日中研究室で実験をしていました。また、研究留学中には、厳しい競争社会の中で、研究で生きていくことの難しさ・厳しさを学びました。

各診療科と連携した医療研究に 取り組む

卒業後の7年間の米国留学経験の中で、臨床の現場で研究がしたいという思いが強くなり、帰国後は医学部附属病院にて各診療科と連携した医療研究に取り組んでいます。生命科学、医学、有機合成・物理化学、分析学などの横断的な知識を有する「薬学の強み」を最大限に活かし、有効な治療法のない難治性疾患の克服を目指した医療研究の推進に貢献したいと思っています。

教育学部　外国語教育を通して 海外文化を生徒たちへ伝えたい

河島　慧美
Emi KAWASHIMA

熊本県立上天草高等学校
教諭

教育学部地域共生社会課程
平成22年度卒

昭和60年生まれ、熊本市北区植木町出身。熊本学園大学付属高等学校卒業後、熊本大学教育学部へ。その後非常勤講師、講師を経て熊本県立上天草高等学校教諭。現在は筑波大学大学院教育研究科教科教育専攻英語教育コースに在籍。趣味はSF映画鑑賞。

熊大のココがイイ！
教育学部地域共生社会課程の黛教授の授業がおすすめです！

「海外と日本の懸け橋」に 将来の目標は揺るがず

高校生の頃は夢がありすぎて、１つに絞ることができませんでしたが、英語を通じて海外と日本の橋渡しになれるような仕事に就きたいという意志は固かったです。そのために、地元の熊本大学に進学し英語圏の大学で1年間の交換留学をしたいと考えていました。

自らの内面を深められた 英国リーズ大学での交換留学

学部生の時は、授業とアルバイトの合間を縫って必死に英語の勉強をしました。単語のリストを玄関やトイレの中まで貼り、家族に迷惑がられたことも！念願だった英国のリーズ大学の留学中には、年間5000人の留学生が訪れるという国際色豊かなキャンパスで哲学や歴史について学びました。ルームシェアやサークルで個性あふれる友人と出会えたことで、様々な価値観に触れ自分の内面を深めることができました。

生徒たちの成長に日々やりがいを感じて

「外国語教育を通して生徒に海外の文化を伝えたい」と思い、英語の教師をしています。グローバル化の時代に活躍できる生徒を育てるために日々悩みながら工夫して指導しています。高校３年間は将来の夢を叶えるための大切な時期です。クラス担任、教材研究、進路指導など様々な仕事は大変ですが、生徒の成長を見るとやりがいを感じます。今は卒業生が立派に成人してくれることを願っています。

INFO 第10回ホームカミングデーを開催します

本学の卒業生と学生、教職員との交流を図ることを目的に開催します。大学の近況報告や学生によるアトラクションをはじめとする多彩な行事と交流の場を用意しています。６つのキャンパスツアーからお好きなものを選んで参加できます。今年から医学部ツアーも新設しました。ご来場を機会にクラス会の企画など、交流の輪を広げてみませんか？

〈開催日時・場所〉
平成27年10月31日（土）13:30～17:00　工学部百周年記念館
〈参加対象者〉本学卒業生
〈問い合わせ先〉運営基盤管理部総務ユニット
TEL：096-342-3116　FAX：096-342-3110
E-mail : kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp
詳細は以下のURLよりご確認ください。
URL：http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/home_coming/

INFO 熊本大学五高記念館文化講座を開催します

市民の方を対象に、五高ゆかりのテーマを取り上げ、楽しみながら学べる文化講座を開催します。

①「漱石と『草枕』作品『草枕』を読み解く」
　講師　村田由美　五高記念館客員准教授
②「漱石が見た明治の熊本　町並みと建築」
　講師　伊藤重剛　五高記念館長
　　磯田桂史　五高記念館客員教授
③「ラフカディオ・ハーンの熊本」
　講師　アラン・ローゼン　五高記念館客員教授
〈開催日・場所〉（いずれも土曜日）
①平成27年10月3日・10日・17日
②平成27年11月7日・14日・21日・28日
③平成27年12月5日・12日
〈参加対象者〉一般市民
〈申込方法〉電話・メール・FAXにて五高記念館へ直接申込み
〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉
熊本大学五高記念館
〒860-8555
熊本市中央区黒髪 2-40-1
TEL ：096-342-2050
FAX：096-342-2051
E-mail：goko@kumamoto-u.ac.jp
URL：
http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp

INFO 第31回熊本大学附属図書館貴重資料展及び公開講演会/第10回永青文庫セミナーを開催します

貴重資料展「細川家臣・道家（どうけ）家の幕藩初期と明治維新」を開催します。道家家文書に残る江戸初期と幕末維新期というふたつの時代から、熊本の歴史を読み解きます。初日には、資料展と関連した講演会・セミナーを開催します。

◆演題１「道家家三代と天草・島原一揆」
◆演題２「〈肥後の維新〉の主柱となった道家之山」
〈開催日時・場所〉
【貴重資料展】〈３日間〉11月1日(日)～11月3日(火・祝)10:00～17:00
【講演会/セミナー】11月1日(日)14:00～15:30
熊本大学附属図書館（中央館）
〈参加対象者〉本学学生・教職員・一般市民
〈申込方法〉申込不要　〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉熊本大学附属図書館　TEL：096-342-2212
URL：http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/1690

INFO ラフカディオ・ハーンの『東の国から』発刊120年記念シンポジウムを開催します

熊本大学と縁のあるラフカディオ・ハーンの『東の国から』は、発刊されて120年となります。熊本大学学術資料調査研究推進室（ハーン部門）主催で記念シンポジウムを開催します。

〈開催日時・場所〉平成27年11月19日(木)14:30～16:00
熊本大学附属図書館（中央館）
〈参加対象者〉本学学生・教職員・一般市民
〈申込方法〉申込不要　〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉熊本大学附属図書館　TEL：096-342-2212
URL：http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/1711

INFO 夢科学探検2015　理学部探検、工学部探検、もの・クリChallengeを開催します

ドキドキ・わくわくするような実験を通して科学の面白さ、不思議さに触れてもらうイベントで、本年度は約100件の演示実験を予定しています。今回で23回目を迎え、参加者は例年2000名を超え、本学南地区では最大の一般市民向けのイベントとなっています。

〈開催日時・場所〉平成27年11月1日(日)10：00～15：00
熊本大学黒髪キャンパス南地区　〈参加対象者〉小学生から一般の方
〈申込方法〉事前申込は不要。当日お越しいただいて各ブースを回っていただく形になっております。　〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉熊本市中央区黒髪２丁目 39 番１号
熊本大学工学部教務担当　TEL：096-342-3522
URL：
http://www.chem.kumamoto-u.ac.jp/act/yume2015.html

REPORT ８月１日、熊本に特化した産学官連携を推進する「くまもと地方産業創生センター」を設置しました

このセンターは、熊本の自治体、産業界、研究機関等のオール熊本で地域産業の活性化を支援し雇用創出を図るための強固な連携体制の拠点となるものです。熊本においても首都圏への若年層人口の流出が課題となっているため、同センターでは大学の研究成果の活用促進と併せて、地元企業へのインターンシップなど企業から学生に向けた人材育成等も取り扱い、魅力ある地域産業の振興により若年層の地元定着に繋がるような雇用創出を支援します。また、オープンセンターとして開放することで、学生を含め、企業や自治体など、誰もが気軽に足を運べる場所とし、活発な人的交流と本学の知的資産の活用を推し進めます。

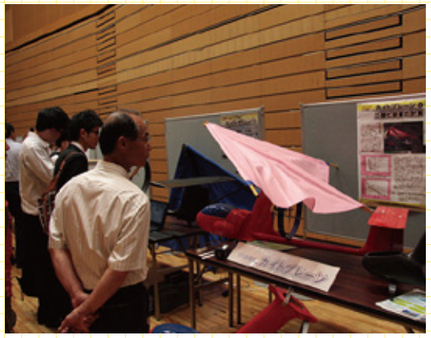
左から原田信志学長、
松本泰道センター長（研究・社会連携担当理事・副学長）

REPORT 熊本無人機研究会講演会「ドローンの未来－進化と展開－」を開催しました

8月5日(水)、熊本大学の教員らを中心とする熊本無人機研究会は、熊本大学工学部ならびに熊本セミコンフォレスト推進会議とともに「ドローンの未来　ー進化と展開ー」と題する講演会を開催しました。この講演会は、ドローン関係者を中心に広くー般向けの情報交換を目的としたものです。

今回はドローン技術のトップ研究者である 野波健蔵教授（千葉大学）と地方創生を目指した近未来技術実証特区の担当者である藤原豊次長（内閣府）による講演を頂きました。

産業界約70名、行政約40名、大学関係約75名など、合計200名を越える参加者があり、展示ブースも含め活発な交流がなされました。


活況の機器展示

REPORT 熊本大学理学部七夕祭りを開催しました

７月３日（金）理学部１、２号館の中庭を利用して毎年恒例の七夕祭りが開催されました。理学部の1，2年生が実行委員となり、企画・運営を行い、当日は浴衣姿の学生も参加して、七夕ムードを盛り上げていました。今年で12回目の開催となり、地域の方や他学部の学生など様々な方が参加し、ダンスなどのステージイベントや焼き鳥や焼きそばなどの模擬店を楽しんでいました。

REPORT 第12回夏休み自由研究相談会を開催しました

７月26日（日）、教育学部理科教育学科主催の「第12回夏休み自由研究相談会」が開催されました。物理、化学、動物、植物、岩石、化石、天文、科学工作、環境問題など理科全般の分野を対象に相談教室は行われ、小中学生からの質問に大学生、大学教員が応えました。学生や教員は、資料や図鑑、時には実験器具などを使って説明をし、子どもたちと自由研究の進め方について話し合いました。

REPORT 理科の体験実習in熊大or天草「来てみなっせ!リケジョスクール」を開催しました

８月２日（日）熊大キャンパスで開催の１日体験と、８月１日（土）～３（月）天草の合宿の２泊３日の２コースで、「来てみなっせ！リケジョスクール」が開催されました。この取り組みは女子中・高生に理系の学問を身近に感じ興味を持ってもらい、将来理系の進路を視野に入れたキャリアビジョンを描いていただくことを応援するためのプログラムです。合宿コースでは、日ごろは体験できない海洋生物の採取と観察や、イルカウォッチングなどが行われ、「楽しいだけではなく、もっといろんなことを知りたいという気持ちがうまれました」といった感想が聞かれました。

ウニの受精卵の細胞分裂の観察

実習船に乗って行われた、プランクトンの採取と、イルカの生態観察（ウォッチング）の様子

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.31（平成２７年６月１日～平成２７年８月３１日）

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約６億６１８万円（平成２７年８月３１日現在）のご寄附をいただき、臨床医学教育研究センター建設や本学学生の留学支援、課外活動支援、６０年史編纂事業等、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成２７年６月１日から平成２７年８月３１日までの間に入金を確認させていただきました個人１５３名、８法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室（TEL：096-342-2029）までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

１．お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※（　）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

【５０万円】　杏龍会 (150)
【２０万円】　前川　嘉洋 (21)
熊本大学工業会熊本支部 (60)
【１０万円】　甲斐原　守夫 (1810)　紙谷　正夫 (30)　菊池　健 (180)　菅野　幸裕 (50)
【５万円】　森永　さとみ
【５万円未満】桐原　茂喜　黒川　敏明　古閑　忠之　中村　弘則　吉田　好孝

２．お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※[　]内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

赤塚　貴史	安部　省司 [2]	池田　淳	井口　和子	今村　遼平 [3]	巖主　廣
太田　貞之 [4]	緒方　雄輔 [8]	岡田　洋一	加治佐　幸夫	鎌田　弘史	上村　文子
河野　亨	川原　貞一郎	木村　勝馬	木村　圭志	小玉　理英子	坂本　龍哉
清水　浩雅	清水　義訓	副田　二三夫 [2]	田頭　紘治	田島　淳行	出利葉　誠治
中川　潔美	中川　敏幸	中村　亮一 [6]	西原　和美	野口　雅章 [6]	濱邉　鶴志 [4]
原尾　紀男	平賀　麻紀	平塚　敏	福田　康歓 [5]	藤井　宣章 [2]	藤野　智子
古門　禎代	前田　博 [3]	正木　秀信 [5]	松下　茂人	松本　泰道 [2]	溝口　寿子 [3]
蓑田　眞幸 [10]	村井　淳男 [6]	柳田　敏孝 [7]	山尾　敏孝 [3]	山口　政仁	山下　泰子
山田　孝吉 [2]	吉岡　征一郎	吉崎　順子			

株式会社ディーエーメディカル　熊本医学会 [3]　熊本大学医学部医学科後援会 [2]
第 63 回熊本大学薬学部卒業生一同　有限会社三笠薬品商会

３．お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 90 名、１法人・団体等

REPORT　甲斐原守夫様が紺綬褒章を受章されました

3月28日、（株）宝生薬局代表取締役である甲斐原守夫様（昭和35年薬学部卒）が紺綬褒章を受章されました。

紺綬褒章は、公益のため多額の私財を寄附された方に授与されるもので、このたびの受章は、本学基金に対するご寄附が内閣府閣議を経て決定されたものです。

また、受章に伴い、6月29日には、原田学長、髙濱薬学部同窓会会長、甲斐薬学部長ほかの皆様の出席の下、伝達式が執り行われました。

なお、甲斐原様からのご寄附は、ご意向に添い、未来を担う優秀な学生の育成のため、薬学部の奨学金に充てています。

伝達式にご出席の皆様（前列中央が甲斐原守夫様）

INFO　平成27年度　東京オフィスセミナー・関西オフィスセミナーを開催します

本学の世界最高水準の研究等を市民にわかりやすく解説することで研究活動の広報とし、併せて本学の知名度を向上させることを目的としたセミナーを開催します。

〈開催日時・場所〉
【東京オフィスセミナー】
日　時：平成27年11月23日（月・祝）
13:30～16:20
場　所：東京工業大学キャンパス
イノベーションセンター１階　国際会議室
【関西オフィスセミナー】
日　時：平成27年11月29日（日）
13:30～15:40
場　所：大阪駅前第２ビル　大阪市立総合生涯学習センター５階　第一研修室
〈参加対象者〉各オフィス近隣に在住する市民、研究者、学生、その他同窓生など、どなたでも
【申込方法】名前、所属、住所、電話、FAX、E-mailを記入し、FAX・E-mailまたは電話にて、各オフィスまでお申し込み下さい。
※ただし、電話受付は、両オフィスとも平日10:00～17:00まで。
【東京オフィス】
TEL：03-5440-9093　FAX：03-5440-9093
E-mail：kuma-u.tokyo@cictokyo.jp
【関西オフィス】
TEL：06-4256-8153　FAX：06-4256-8153
E-mail：kansai-office@jimu.kumamoto-u.ac.jp
〈参加費〉無料

INFO　湯川記念財団　林忠四郎記念講演会を開催します

天文学に多大な貢献をした故林忠四郎博士にちなんだ講演会を開催します。小久保英一郎氏（国立天文台教授）が太陽系の起源について、佐藤文隆氏（京都大学名誉教授）が林忠四郎博士について講演を行います。

〈開催日時・場所〉
平成27年10月16日（金）16:00～18:00
工学部百周年記念館
〈参加対象者〉
一般・学生・教職員
〈申込方法〉
事前申し込みの必要なし。
〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉
自然科学研究科
准教授　高橋慶太郎
E-mail:keitaro@sci.kumamoto-u.ac.jp
TEL:096-342-3352

INFO　平成27年度「熊本大学政創研公共政策コンペ」を開催します

第7回の開催となる今年度はテーマを「チャレンジ！熊本」とし、テーマに沿って出された政策提言を審査し、優秀なものを表彰します。

〈開催日時・場所〉
平成27年10月25日（日）13:00～17:00
熊本大学工学部百周年記念館
〈参加対象者〉
興味のある方ならどなたでも
〈申込方法〉事前申し込みは不要です。
〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉
熊本大学政策創造研究教育センター
TEL：096-342-2044
E-mail:seisakucompe@gmail.com
URL：http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp

INFO　高校生・市民のための大学特別教室「生命の謎に迫るシンポジウム」を開催します

発生医学研究所は、「きみのチカラが科学を拓く　未来を創る」シンポジウムを開催します。それぞれの分野の第一人者の先生方が、高校生や市民の皆様に、科学研究の面白さ、楽しさについて話します。

〈講師〉
東北大　加齢医学研究所　所長　川島隆太先生　「自分の脳の鍛え方」
京都大　霊長類研究所　所長　平井啓久先生　「人間とは何か？」
熊本大　発生医学研究所　副所長　西中村隆一先生　「腎臓をつくる」
〈開催日時・場所〉
平成27年10月31日（土）8:30受付開始、9：30～11：40
熊本市国際交流会館ホール
〈参加対象者〉高校生、市民
〈申込方法〉申込不要（先着 200 名）〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉
熊本大学生命科学先端研究事務ユニットセンター事務チーム
TEL: 096-373-6637　E-mail:imeg@kumamoto-u.ac.jp

INFO　Hasseiって何ですの？

『本九祭』の発生医学研究所企画として、生きた実験動物や幹細胞（ES細胞・iPS細胞）を展示します。実際の研究室の見学ツアーもあります。

〈開催日時・場所〉
①平成27年10月31日（土）11:00～17:00
②平成27年11月1日（日）11:00～17:00
〈申込方法〉事前申し込みは不要です。〈参加費〉無料
〈問い合わせ先〉発生医学研究所
TEL：096-373-5786
E-mail:imeg@kumamoto-u.ac.jp
URL：http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/

来なつせ熊大！

企画いっぱい、楽しさいっぱい

紫熊祭

黒髪キャンパス学園祭

2015.11.1 [SUN]
11.2 [MON]
11.3 [TUE]

知ろう！楽しもう！熊薬

蕃滋祭

大江キャンパス（薬学部）学園祭

2015.10. 31[SAT]
11. 1 [SUN]

復活のHk

本九医学祭

本荘・九品寺キャンパス（医学部）学園祭

2015.10. 31[SAT]
11. 1 [SUN]

熊本大学
Kumamoto University

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
TEL.096-344-2111（代）
http://www.kumamoto-u.ac.jp/
■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス